

## 臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について下記のとおり情報を公開します。  
研究結果は学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。  
★本研究の対象となられる患者さんで本研究にご賛同いただけない方や、研究計画、研究方法、または個人情報の取扱いなどについてお問い合わせがある場合は、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。  
★研究不参加を申し出られた場合も、不利益を受けることはありません。

### ＜研究課題名＞

小細胞肺癌の初期治療成功例で予防的全脳照射施行不能例の予後についての後ろ向き観察研究

### ＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 放射線科 (研究責任者)前林 俊也

### ＜研究期間＞

承認日 ～ 2017年12月31日

### ＜研究の目的と意義＞

小細胞癌肺癌の標準治療は化学放射線治療である。初期治療で病変が消失した場合は脳病変の有無にかかわらず、予防的に全脳照射を行うことが標準治療になっている。しかし、実際には病変がないにも関わらず、脳に照射することへの抵抗感や認知機能障害を含めた副作用の心配から、予防的全脳照射が行えない事がある。予防的全脳照射が提唱されたのは1999年であり、以後新しい治療薬の出現や照射方法の進歩によって予防的全脳照射を省略できるような患者群が存在する可能性がある。そのため、予防的全脳照射施行不能例の生存率や転移性脳腫瘍の出現率を検討する。

### ＜対象となる患者さん＞

2001年1月1日～2014年5月31日の期間に小細胞癌の初期治療で胸部病変が消失した方

### ＜研究の方法＞

今回我々は過去に放射線治療を行なった小細胞肺癌の患者さんについて画像や診療記録を見直すことで、予後、転移性脳腫瘍の出現率を調査する。またその時点でのステージや全身状態、放射線治療のスケジュールなどが予後に影響するか調査する。

### ＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町30-1)

放射線科 氏名:前林 俊也

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2554 (PHS)8328